

授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	山武市立山武望洋中学校
-----	----------	-----	-------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○令和5年度および6年度調査において平均正答率は、県および全国を下回る結果であった。領域別に見ると、「数と式」と「図形」が低かった。特に、「数と式」では「数学的用語の理解を問う問題」、「基本的な計算や方程式を解く問題」について、正答率が全国平均を大きく下回っている。数学的用語の理解、基本的な計算手順についての理解が不十分であることが本校の課題である。また、問題の意味が分からない生徒が多く、問いの前提条件となる問題文の意味をよく理解し、自分で正しく表現できる力を育てていかなければならない。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 1～3学年の関数や図形の領域に関する授業において、少人数指導やチーム・ティーチングによる個別指導を充実させることにより、基礎学力も向上するであろう。
- ICTを効果的に活用することにより、主体的・対話的で深い学びができるであろう。
- 教科等横断的な学びを推進し、数学科と他教科を関連づけた授業の実践により、用語が定着し、論理的思考力が育まれるであろう。

3. 具体的な実践

- 1学年と3学年では、生徒の実態に合わせてクラスを習熟度別に2グループに分け、少人数指導を行う。2学年ではチーム・ティーチングによる個別指導を行い、個に応じた指導を図る。さらに効果的に個に応じた指導を行い、話し合い活動を充実させるために、生徒の実態をもとに、定期的に少人数指導のグループ編成や座席を変えるようにする。「数と式」の領域における授業では、「数学的用語の理解の確認」や「基本的な計算や方程式を解くための手順の確認」を授業の中で繰り返し行い、定着を図っていく。
- 「よりよく伝える」ことを目的とした言語活動の充実のために、タブレット端末でまとめを共有したり、関数や図形の領域に関する授業では、ソフトウェアを使い、グラフや図を動かしたり、切ったりし、実際に目で見て確認させたりする。
- 具体的な場面と関連付ける際に、他教科と共通した内容に関する題材を用いる。

4. 成果

- 少人数指導やチーム・ティーチングによる授業は、生徒一人一人に応じた指導がしやすく、生徒の意欲も高まっている。また、少人数指導を習熟度別に編成したため、生徒同士が助け合ったり教え合ったりする授業が増えた。さらに、授業の始めに、前時の復習や「ちばのやる気学習ガイド」を利用することで、生徒が本時の内容との繋がりを確認することができたり、教員が生徒の定着度を把握したりすることができた。
- 電子黒板やソフトウェアを利用することにより、全員の考えを共有することができ、これまで気付いていなかった見方や考え方が見えるようになった。また、ICTを課題の提示や個々の発表の場として効果的に活用するだけでなく、関数を中心に、ソフトウェアを用いて、思考の過程を視覚化したり、言語化したりする過程の1つとすることができた。
- 他教科と関連付けた題材を用いたことで、各教科共通の用語を確認する回数が増え、生徒がその必要性を認識する機会となった。また、共通の内容を複数の教科からみることで、多面的に捉える機会を確保することができた。さらに、各教科で振り返りを自分自身の言葉で書いたことで、記述での表現に苦手意識を持っている生徒に対し、自分で正しく表現する力をつけさせることができた。

◆担当指導主事から

- 全国学力・学習状況調査の結果を丁寧に分析し、各教科等において学力向上に向け、授業改善の取組を行ってきた。特に数学科では、ICT機器の活用や少人数指導に工夫が見られている。生徒一人一人の変容を見取り、きめ細かな指導を重ねることで成果を上げることができた。